

という中で、圏域の決め方がこの地方にとってかなり重要なポイントになってくることを理解いたしながら、地方の意見を十分にそこに反映していただきながら圏域を決めていただく必要があると思っております。

私は、圏域を決めるためにこれからできる一つのまとまったブロックは、自立できるブロックでなければいけないと思います。そこだけが一つの国になっても自立できるようなものでなければ、そこに権限や予算をもらっても生きていけないわけですから、一つにはそういう範囲でなければいけない。そして、人間生活に関連したブロックでなければいけない。特に、水とか地形は非常に大きな影響を与えますので、そういったものを念頭に置きながらブロックの切り方を考えなければいけないのではないかと。そうした議論が「まんなか懇談会」でも出ております。関係者には申し上げていくつもりでございますけれども、そのようなブロックの切り方は、地方と国が対流するという今回の計画におきまして非常に大きな柱になっていることをご理解いただく必要があると思っております。

そして、安全・安心な国土、豊かな、ゆとりある国土づくりをするというのが結論でございます。これは異論がないところだと思いますけれども、それを成熟社会にふさわしい計画にする、そして国と地方ブロックとが対流をしながら、意見を交換しながらやっていく、国が一方的にやるのではなく我々の計画を集約しながらやっていく。そこがこれまでと大きく違っていることをご理解いただきながら、これからのいろいろな議論を見ていただきたいと思っております。



なお、国土形成計画という言葉の中には、これまでの土地利用計画などもすべて包含されます。また、各種の整備法に伴う計画等も包含されます。これ一本に集約されて、これからの国づくりの基本が決まる。そういったものでございますから、非常に重要な、将来を決める大きな計画づくりになっていくということを理解しておかなければいけないと思っております。

国土形成計画につきましては、現在、作業が進みつつあります。後ほどパネリストの皆さん方からもいろいろなご意見が出るだろうと思っておりますが、私からはやや要約しながらそのように申し上げておきたいと思っております。

(2) これからの中部 (まんなか懇談会ポスト万博宣言に示した考え方について)

次に、中部の問題に絞ってまいりたいと思っております。万博が終わりました。2,205万人というのは大変な数でありまして、成功であったことに異論の余地はないところだと思っております。しかし、それでよかったのだろうか、これだけで終わりになるということであってはならないと思うのです。これから万博の効果をこの地域全体にどのように活かしていくか、万博の開催地としてそれをいかに国全体の効果に結び付けていくか。これが私どもの大きな使命ではないかと思うのであります。また、それが万博開催地の責務ではないかと思っております。

ポスト万博と申しますけれども、万博にあれだけの人が来ていただいて成功した。この効果を定着させ、全国に波及させていくためには何をなすべきかということがまさにポスト万博だと思うわけでありまして。お手元でございます資料も「まんなか懇談会 ポスト万博宣言」と書いてございますが、万博の終わった後、何をしようかということを書いてあるのは、そのような意味合いでございます。

中部が目指す方向性 …【テイクオフ中部】

その方法論として、テイクオフ中部があります。中部が万博

の効果を起爆剤に離陸するのだということを私どもは叫びたい。万博後の中部はまさに「中部元年」を迎えています。万博が正月三ケ日のお祭りだったとすれば、4日の御用始めがこの計画であり、いよいよこれからスタートしようという状態がまさに今なのです。そういう意味合いでこの計画をご覧いただきたいと思っております。

これからの中部ということで我々がまず考えなければいけないのは、21世紀の発展の原点に中部はなりたいた。それは、万博の開催地であると同時に、立地条件からいって日本の真ん中にあるわけです。全国の人が一番アクセスしやすい、どこに行くにも中部を通らなければいけない。交通の要衝でもある。また、日本のモノづくりの中核でもある。そのような意味合いで、中部は日本の21世紀の発展の原点になっていかなければならない。そのような問題意識を持つわけでありまして。これがこの計画のすべてを網羅しております一つの思想でございます。

具体的にどのように展開するのかということにつきまして、私なりに整理してみますと3つの柱があると思っております。

1つ目は、安全で健康な国土づくりです。先ほどの形成計画にもございます。それが一番の基本ではないかと思っております。人間が安全・安心に生きていけなければ何もスタートできませんから、これが基本でございます。

2つ目に、この地域はモノづくりの地域でございます。全国のモノづくりの中核にならなければいけないわけでありまして。すでにになっているわけでありまして、これからはますますそうになっていかなければいけないと考えますと、国際競争力が必要になります。これまでは日本国内だけでやってこられたものが、これからは国際競争力を付けて、外国の企業と堂々と太刀打ちしながら、競争しながら発展できるようにできれば可能性はないわけでありまして。国際競争力のある生産拠点圏にしていきたい。これが2番目の目標ではないかと思っております。

3つ目の目標といたしましては、国際交流拠点圏づくりでございます。日本の真ん中でございますし、万博で約2,200万人の方が半年の間にお集まりいただけたということは、非常に交流しやすい地域である、そういう立地条件に恵まれているというこ

とでございます。その勢いを活かしながら、日本の、また世界の人々が集う所として交流の拠点にしていきたい。

この3つが、これからの展開を考える際の中部の方向ではなからうかと思っております。

そのために何をなすべきかという議論が出てくると思っております。安全で健康な国土づくりでは、リサイクルも含めて循環型の社会を作っていかなければ安全・健康にはなりません。防災の問題もございます。また、中部にある美しい景色を保全していく、景観の保全の問題もあると思っております。競争力のある生産拠点圏づくりのところで申し上げるならば、生産拠点の機能を高めるために、いろいろな研究拠点をもちと強化するとか、産業拠点都市をあちらこちらに確立していくとか、それらをつなぐネットワークを作るといったことが出てまいると思っております。

国際交流圏づくりにおきましては、万博では全国のモデルになるようないろいろな交通ができました。リニモもできましたし、あおなみ線もできましたし、基幹バスもできました。空港もできましたし、新しい道路もできました。いろいろなものができました。こうしたものを使って日本の交通先進地域になる要素が整ったわけでありまして、そのような交通モデル圏域を作りたい。同時にまた、交流を一番端的に促進できる方法は観光だと思っております。単なる物見遊山ではなく、国や地域の優れたものを多くの人に心を込めて見てもらい、人的交流を図りながら文化を形成していくことが観光でございます。

そのように考えますと、交流拠点づくりの一番大きなポイントは、交通インフラの整備により交通モデル地域を作ることと、中部観光圏といったものを作ることではないかと考えております。

そして、例示をするならば、環境産業・環境交流でございます。環境産業とは、何もリサイクル産業だけを言っているのではございませんで、環境との共生に配慮したあらゆる産業のことを私どもは環境産業とっております。ほとんどの産業がすでにそういう方向に向かっておられますけれども、それを促進することです。

そのためには、なんとと言っても社会資本整備が重要です。万博で整備されたものをいかにうまく活用するかということが中